



やまざき ゆずか  
**山崎 柚佳さん**

●佐野小学校 6年

## 夢にみていること

わたしの将来の夢は、デザイナーになることです。

わたしは、小さい頃から手芸が大好きで、これまでにいろいろな作品を作りました。そして、たくさんの作品ができるうちにデザインについて知りたくなったのです。

かわいい小物、洋服など、作るものによってデザインにもたくさんの種類があることが分かりました。これからもデザインに関する勉強をして、夢であるデザイナーになれるよう頑張っていきたいです。



## 市長からの

## メッセージ



紫陽花が大輪の花を咲かせる頃となりました。先月21日に、天皇后陛下が佐野市郷土博物館を御視察されました。両陛下が本市を御行啓されることは初めてということになってまいりまして、非常に光栄なことと感じております。

私も市長として市民を代表し、市議会議長、郷土博物館館長と共に、御出迎えをいたしました。両陛下には展示された資料について御質問をいただくなど、大変興味深く御覧いただいた御様子でした。

昨年度は田中正造翁の没後百年という節目の年であり、本市ではその功績を讃え、さまざまな顕彰事業を行ってまいりました。正造翁については新聞、テレビなどメディアでも多く取り上げられたところがございます。このような市、そして市民の皆さんの真摯な取り組みの結果として、両陛下に足尾銅山鉱毒事件および田中正造翁に御興味を示していただけたのではないかと、思っております。

今回御訪問いただいた佐野市郷土博物館には正造翁の資料のみならず、本市の成り立ちや歴史の資料も展示してあります。皆さんぜひお出かけください。

先月から、市内各地で各種総会やスポーツ大会などが数多く開催されております。私も時間の許す限り出席させていただきました。今後も魅力と活力あるまちづくりを推進し、私の「対話・協調・融和」の政治信条で、さらに市民の皆さんと心ひとつになれるよう、さまざまな事業に取り組んでまいります。

梅雨冷えの肌寒い日もありますので、皆さんにおかれましては体調を崩されませんように、お元気で過ごしてください。

岡部 正英



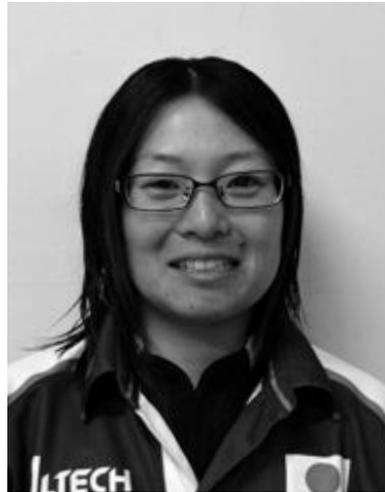
## 今回の表紙「決勝・日本対パプアニューギニア」5月11日(日)田沼高校跡地

5月6日から11日まで行われていた東アジア太平洋地域女子クリケット選手権は、11日に決勝が行われ、3連覇を目指した日本は惜しくも敗退しました。

この選手権には日本、パプアニューギニアやサモア、バヌアツ、クック諸島の5カ国が参加し、田沼高校跡地など市内を会場に、熱戦が繰り広げられました。



みやぢしずか  
宮地 静香さん  
(天神町)



キラリ★  
話題の「ひと」

○プロフィール  
兵庫県出身。結婚を機に佐野市に居住。  
大学時代にクリケットを始める。  
現在、クリケット女子日本代表選手で、主将を務める。  
夫・直樹さんは日本クリケット協会事務局長。

クリケット女子日本代表

現在、クリケットの女子日本代表チームで主将を務めている宮地静香さん。彼女が率いるチームは、5月に佐野市で行われた東アジア・太平洋地域女子クリケット選手権において、準優勝となりました。

代表のメンバーは15歳から32歳まで。年齢も違えば生活環境も全く違う14人。佐野市在住の選手として坂本選手もいますが、関東圏から関西圏まで、いろいろなところから集まっています。

クリケットは相手が投げたボールを打ち返し、得点を競う競技です。日本での競技人口は3千人ほどですが、世界的にはサッカーに次ぐ競技人口だそうです。体力はもちろん、ポジションングがものをいう「頭腦のスポーツ」だと宮地さんは話します。バッターがどこに打つか。特徴をつかみ、ポジションを判断し、いかに守るかが勝負のカギとなるそうです。

日本ではまだなじみがないスポーツですが、宮地さんは大学生の頃、興味本位で始めたそうです。やればやるほど上達していく中で、どんどのめりこみ、留学なども経て、ついには日本代表となりました。海外



5月11日、田沼高校跡地での決勝戦後、チームメートとともに

で盛んなクリケット、取り組むことで人生観が変わる選手も多にいるそうです。

試合の遠征や協会の運営などで大変なご苦労もあるようですが、今後、よりたくさんの方にクリケットを知っていただくことを目指す宮地さん。それとともに、選手として、この9月に行われるアジア大会での優勝を目指しています。4年に1度行われるアジア大会。前回は銅メダルだったそうで、今回はぜひ金メダルをとりたいと目を輝かせて話してくれました。

お会いしたのが、決勝戦の2日後。5日間で6試合をこなし、心身ともにお疲れの中、すでに次の目標へ切り替えていた宮地さん。他の選手の皆さんとともに、今後も頑張ってください。  
(市民記者 葛貫郁子)



おしめを当てがうことを  
カウという

「さつき、赤ちゃんにおしめをカッてやったばかりだから、…」「えっ！おしめを買ってやった？いつの間にかどこで？」

こんな行き違いの対話があってもおかしくありません。なぜなら「かう」には「買う」という意の共通語と「当てる」という意の方言があるからです。

乳幼児などの大小便を受け止めるために、股またにおしめを当てますが、これを方言ではカウといいます。

共通語では、当てることを「当て交がう」ともいいますが、別に「交がう」ともいいます。交がうは取り替えること、つまり方言の「カウ」は、「交がう」から出たことばで、もとは（おしめを）取り替えるという意味でした。

カウの頭に「オ」をつけて、オッカウともいいます。オッカウもカウも意味的に変わりはありませんが、カウに比べてオッカウのほうがやや力のこもった強いひびきをもっています。

「寝たつきのじいさんがいるんで、どんな忙しくたっておしめだけはオッカウてヤンネ（やらない）とね」

ちなみに昭和20年頃（明治・大正生まれの人たち）まで、おしめをモッコともいい、おしめを当てることを「モッコカウ」といいました。ただ、年齢的に使用範囲は老人に限られ、乳幼児に対して使うことはありませんでした。

「ばあさんも弱っちゃッてねえ、モッコカウて寝てヤンス（いますよ）」  
(市民記者 森下喜一)

